

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—ウポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令和4年2月1日

表彰団体決定！「わが村は美しく－北海道」運動

～第10回コンクール 管内から優秀賞1団体、奨励賞2団体が決定～

北海道開発局は、「わが村は美しく－北海道」運動 第10回コンクールを開催し、全道75団体（60市町村）の応募の中から選考の結果、農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動として、優秀賞13団体、奨励賞20団体を表彰することを決定しました。

このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村が、より「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見だし、これを広く発信し、波及させていくことによって農山漁村の振興に寄与することを目指し、平成13年より、2年に一度開催しています。（別紙1）

今回は、全道10のブロックごとの審査により、各ブロックから選定された団体（優秀賞13団体、奨励賞20団体）を表彰します。（別紙2）

なお、今回表彰された優秀賞の中から、来年度（令和4年度）の大賞審査により、第10回コンクールの大賞を決定します。

網走開発建設部管内から8つの団体の応募があり、以下のように優秀賞1団体及び奨励賞2団体を表彰することに決定しました。

表彰団体	優秀賞	えづらファーム（遠軽町）
	奨励賞	北海道美幌高等学校 環境改善班（美幌町）
	奨励賞	特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会（西興部村）

なお、各団体の活動概要は、資料1～3を参照願います。

また、共催団体である「NPO法人わが村は美しく－北海道ネットワーク」が決定したNPO特別賞についても、本日、NPOより公表されます。

【「わが村は美しく－北海道」運動とは】

「わが村は美しく－北海道」運動とは、北海道の農山漁村が持つ、かけがえのない地域の資源（景観・地域特産物・人の交流）を守り、次の世代に引き継ぎ、そこに住む人々が誇りを持てる北海道の「わが村」の未来を創っていき、との思いから生まれた運動です。「地域に住む方々が主体となった地域づくり活動の普及により、北海道の農山漁村全体が豊かになり、活性化をもたらす」ことを基本の考え方とし、地域で活動する団体などを支援しています。

「わが村は美しく－北海道」運動の情報は、以下のホームページに掲載しています。

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g700000emhm.html



【問合せ先】北海道開発局 網走開発建設部

土地改良情報対策官

野地 正昭 電話 0152-44-6870 (直通)

土地改良情報対策官付 土地改良情報係長

安達 清二 電話 0152-44-6917 (直通)

網走開発建設部ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/ab/>



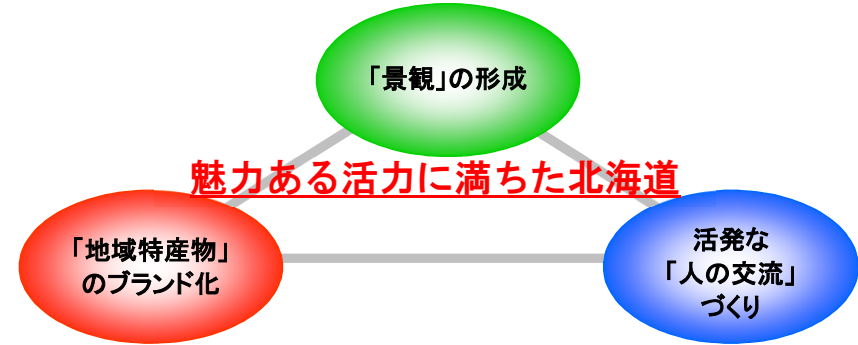


「わが村は美しくー北海道」運動とは

Point

- 北海道の農林水産業をより豊かにすることをめざし、平成13年にスタート
- 道内各地で地域資源を活用して地域を活性化しようとする住民主体の活動に対する支援

【景観】 地域の特色を活かし、生活と生産に根ざした景観形成活動



【地域特産物】

地域で生産される農林水産物及びそれらを主として利用した加工品の生産販売活動

【人の交流】

地域の魅力を高めるコミュニティづくりに結びつく都市及び地域内外の人たちとの交流活動

【参考】第9回コンクール大賞受賞団体

特定非営利活動法人 サトニクラス【月形町】
農業と福祉のまちで「里に暮らす」農福連携に取り組んでいます



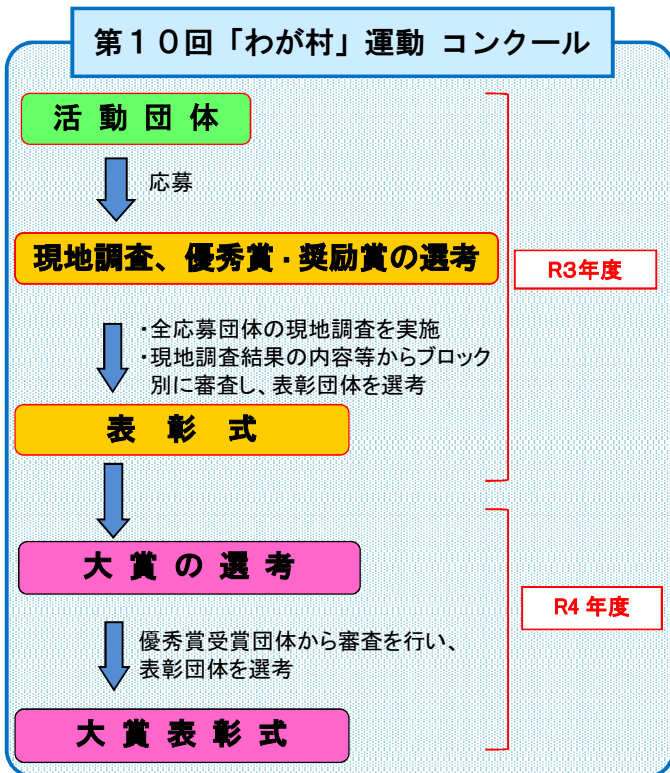
北海道真狩高等学校【真狩村】
「村をもっと元気に！」野菜スイーツで高校生が取り組みます



- **参加しようー中心となるのは、地域に住む人々** 「地域の資源」を見つけよう
- **広げようー活動の輪を大きく、自由に** 地域の個性を競い合い高め合い
- **伝えようー北海道の「いいもの」を、もっと外へ** 地域住民の努力と行動に光をあて、広く伝えよう

取組

- コンクールの開催 ← 「地域資源」を見つけ、「いいもの」を多くの人に伝えます
- 地域の魅力を高めようとする地域住民の活動をさらに広く伝えて、その活動を支援し波及させます



多くの人に伝えるための取組

- HPへ掲載 https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ky/nou_sin/ud49g7000000emhm.html
→活動団体の最新情報を広く発信
- メールマガジンの配信
→活動団体への情報提供
→活動団体の最新情報を発信
- JR北海道の車内誌
→「The JR Hokkaido」への掲載 (JR北海道の協力)
- 地域イベントで活動PR
→地域イベントに参加し 団体活動を紹介
- 札幌「チカホ」でPR
→デジタルサイネージで放映 (札幌市の協力)
- facebook(フェイスブック)の取組 <https://www.facebook.com/wagamura>
→活動団体の最新情報を広く発信



【別紙 2】



令和 4 年 2 月 1 日
北海道 開発 局

「わが村は美しくー北海道」運動第 10 回コンクールの表彰団体を決定
～農山漁村地域の活性化に貢献する活動を応援しています～

「わが村は美しくー北海道」運動では、平成 13 年より 2 年に一度コンクールを開催しており、今回で 10 回目となります。

第 10 回コンクールには全道から 75 件（団体）の応募があり、審査の結果、優れた活動として優秀賞 13 団体、奨励賞 20 団体を表彰することとしました。

表彰式は、本日以降、随時、表彰団体の応募先である各開発建設部ごとに行う予定ですので、詳細については、該当する開発建設部土地改良情報対策官にお問合せください。

○第 10 回コンクールの概要について

1. コンクールの応募状況等について

(1) 応募件数

全道 60 市町村から 75 件（団体）の応募

(2) 審査経過

- ▶令和 2 年 12 月～令和 3 年 6 月：募集
- ▶令和 3 年 7 月～11 月：全道 10 ブロック※での現地調査
(ブロック審査委員会による全応募団体の調査)
- ▶令和 3 年 7 月～12 月：ブロック審査委員会での審査
(現地調査の結果から表彰団体を選考)
※各開発建設部の所管を 1 ブロックとしている。

2. 表彰団体について

(1) 優秀賞※（北海道開発局長表彰）[13 団体]

※優秀賞：ブロック審査により、活動が優秀と認められた団体を選定。

- ▶ 農猿（南幌町）
- ▶ そらち南さつまいもクラブ（由仁町・栗山町）
- ▶ 奥尻高等学校オクシリイノベーション事業部×奥尻ワイナリー（奥尻町）
- ▶ ベジタブルワークス株式会社（真狩町）
- ▶ 富良野市立樹海中学校（富良野市）
- ▶ けんぶちキヌア生産普及組合（剣淵町）
- ▶ 北のなのはな会（安平町）
- ▶ 有限会社 仁成ファーム（釧路市）
- ▶ 北海道帯広農業高等学校 食品科学科 地域資源活用分会（帯広市）
- ▶ ほんべつ豆まかナイト実行委員会（本別町）
- ▶ えづらファーム（遠軽町）
- ▶ 北海道遠別農業高等学校（遠別町）
- ▶ 稚内農業協同組合 稚内牛乳（稚内市）

（受賞団体名は順不同です）

【別紙 2】

(2) 奨励賞* (各開発建設部長表彰) [20団体]

※奨励賞：ブロック審査により、将来性や継続性から奨励すると認められた団体を選定。

- ◇札幌ブロック [2団体]
 - ・北海道当別高校 ボランティア局 (当別町)
 - ・南区農園ガイドの会 (札幌市)
- ◇函館ブロック [4団体]
 - ・やくも元気村 (八雲町)
 - ・七飯の食を考える会 (七飯町)
 - ・福島町千軒地域活性化実行委員会 (福島町)
 - ・やまの会 (せたな町)
- ◇小樽ブロック [1団体]
 - ・北海道倶知安農業高等学校 (日本酒プロジェクト) (倶知安町)
- ◇旭川ブロック [4団体]
 - ・北海道旭川農業高等学校食品科学科 あったか旭川まん研究グループ (旭川市)
 - ・特定非営利活動法人 もりねっと北海道 (旭川市)
 - ・JAたいせつ田んぼアート実行委員会 (旭川市)
 - ・当麻土地改良区 (当麻町)
- ◇室蘭ブロック [1団体]
 - ・沙流太ほおずき絆の会 (日高町)
- ◇釧路ブロック [2団体]
 - ・北海道標茶高等学校 牛乳班 (標茶町)
 - ・北海道厚岸翔洋高等学校 海洋資源科 アナジャコチーム (厚岸町)
- ◇帯広ブロック [2団体]
 - ・北海道士幌高等学校 乳加工専攻班 (士幌町)
 - ・メモロピーナッツ (芽室町)
- ◇網走ブロック [2団体]
 - ・北海道美幌高等学校 環境改善班 (美幌町)
 - ・特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会 (西興部村)
- ◇留萌ブロック [1団体]
 - ・上田ファーム株式会社 (苫前町)
- ◇稚内ブロック [1団体]
 - ・就労継続支援B型事業所稚内市北光園 (稚内市)

(受賞団体名は順不同です)

【別紙 2】

【参考】

(3) NPO特別賞※（「NPO法人わが村は美しくー北海道ネットワーク」理事長表彰） [6団体]

※NPO特別賞：総合的には評価されなくても、特筆すべき特徴を有する活動団体をNPOが選定。

- ◇札幌ブロック [1団体]
 - ・北広島市水稲赤毛種保存会（北広島市）
- ◇函館ブロック [1団体]
 - ・えさし水土里の会（江差町）
- ◇小樽ブロック [1団体]
 - ・黒松内フットパスクラブ（黒松内町）
- ◇旭川ブロック [1団体]
 - ・ピリカ株式会社（比布町）
- ◇釧路ブロック [1団体]
 - ・別海町女性農業士会（別海町）
- ◇留萌ブロック [1団体]
 - ・フレッシュ市場「花菜夢」（遠別町）

（受賞団体名は順不同です）



優秀賞

遠軽町白滝



世界中からお客様が農業体験にいらっしゃいます

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

えづらファーム

【遠軽町白滝】

遠軽町白滝から「農村、農業の魅力」を発信

はじめは？

私たちは東京在住の会社員でした。仕事は充実していましたが、もっと家族と共に過ごせる仕事がしたく、北海道で農家になることを決心しました。3年間の農業研修を経て、2012年に遠軽町白滝に畑作農家として新規就農しました。私たちは農家になってからここでの暮らしや農業という仕事に夢中になり、「農村や農業の魅力や素晴らしさ」を胸をはって1人でも多くの人に伝えていきたいと感じ、作物生産を基本に、それに留まらない様々な事業や活動を始めました。

おもな活動

42haの農地での畑作農業を基幹に、農業や農村の素晴らしさを広める為の様々な事業を展開しています。

- ・付加価値をつけた作物の通信販売(年間約1000箱)
- ・住込みボランティアの受入れ(年間約80名 ※2019年)
- ・農家民宿の経営(年間のべ約500名 ※2019年)
- ・農場アクティビティの提供(畑ツアー、収穫体験、ピザ窯料理等)(年間約250名 ※2019年)
- ・農業を通じた企業研修の受入れ(東京のIT企業等 年数回)
- ・農作物加工品の製造販売(冷凍じゃがいもの販売)



ジャガイモ食べ比べセット

ここが自慢

【農業を通じて、関係人口の創出】

受入をしている住込みボランティアが、ここでの生活を通して「自分の夢が見つかった」と言われることにやりがいを感じます。また、ボランティアを近隣の農家に派遣することもあります。民宿には世界中から宿泊者が来てくれ、畑ツアー等を楽しんでいます。都会の子どもが「初めて土の上を歩いた」、「テントウムシを見た」と感激する姿に農村の恵まれた環境を再認識しています。企業研修では、「事務系職種の社員が協力して汗を流すことで、チームワークが深まり離職率が減った」と聞き、農業の無限の可能性を感じます。冷凍じゃがいもの素揚げが、道の駅遠軽で提供され、「美味しい」を通して地域の魅力を知ってもらう一助になっていたら嬉しいです。



ビートの収穫作業を終えた瞬間のボランティア

連絡先

代表者名：江面 暁人さん／設立：2012年／会員：5名

住所：遠軽町白滝北支湧別152-3

電話番号：0158 - 48 - 2050

F A X：0158 - 48 - 2050

E-mail：ezurafarm@gmail.com

U R L：www.ezurafarm.com



奨励賞

美幌町



頭首工でのウチダザリガニの駆除活動と捕獲したウチダザリガニ

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体
北海道美幌高等学校 環境改善班
【美幌町】

オホーツクの自然を守れ！ オホーツクで実践する自然環境改善！

はじめは？

美幌博物館が美幌町で魚介類調査を行い、特定外来生物のウチダザリガニの生息を確認しました。在来種のニホンザリガニが減少し、ウチダザリガニによる生態系への影響を確認したので、この対策としてウチダザリガニの駆除活動が始まりました。環境改善班は、2014年から地域の環境を改善するため、この駆除活動に参加し、同じく駆除活動をしていた東京農業大学を含めた三者で駆除とその活用方法の研究を始めました。

おもな活動

累計で1万匹以上のウチダザリガニを駆除したので、大型個体が減り、ニホンザリガニの生息域が改善しています。また、駆除した命を有効活用するため、食用の他に有機肥料として利用する方法を研究しています。2015年から地域住民に向け、ウチダザリガニ交流会を開催し、高校生以下を対象にウチダザリガニの生態等を説明、駆除体験及び試食会、美幌高校環境改善班の活動発表をしています。

さらに、地域の多くの民間団体・行政機関で構成している「網走川流域の会」と連携し、網走川流域での清掃活動、環境調査やマイクロプラスチック調査及び網走湖の環境浄化試験などに取り組んでいます。



網走湖での環境調査

ここが自慢

【環境保全活動で地域と連携】

環境保全活動を通じて、地域での連携・協力が進み、効率的で大規模な活動が可能になりました。さらに、地域の繋がりが深まることで、美幌高校を中心に網走川流域の会を始め東京農大や美幌博物館、地域の学校・幼稚園などの団体が環境教育に関わり、地域内外の住民の環境保全への理解が広がっています。環境保全を地域の課題として感じてもらい、自然と生活・産業が共存できるように継続的に活動することで、網走川流域の農林水産業の持続的発展に寄与しています。その外、各種活動は、国連の目標であるSDGsに貢献しています。



地域の子供と一緒に駆除活動

連絡先

代表者名：伊與部 明さん／設立：2014年／生徒：6名

住所：美幌町字報徳94番地

電話番号：0152 - 73 - 4136 (担当：野口 潤さん)

F A X：0152 - 73 - 4137

E-mail：JUN-noguchi@hokkaido-c.ed.jp

URL：http://www.bihoro-high.hokkaido-c.ed.jp/



西興部村



ガイド付きハンティングの様子とエゾシカの解体実習の様子

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体
特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会
【西興部村】
害獣エゾシカを地域資源として活用！

はじめは？

北海道ではエゾシカが増え、農林業被害や交通事故が発生し、社会問題となっていました。個体数を減少させるためにシカが捕獲されてきましたが、十分な成果は得られていませんでした。こうしたなか、「害獣」としてのエゾシカを地域の「資源」として活用するため、西興部村全域に「猟区」の認可を受け、ガイド付きの狩猟によりエゾシカを地域の自然資源として積極的に管理しながら有効活用する試みを始めました。

おもな活動

入猟事業、狩猟者教育、環境教育、調査研究の4つの事業の実施を通じて、村の活性化を目指しています。入猟事業はシカの個体数を管理するため入猟者を1日2組に制限したうえで、地元狩猟者がガイドとして同行し、狩猟の場を提供しています。狩猟者教育は狩猟者やレンジャーの育成と狩猟のスキルアップのためのセミナーの開催等を行っています。環境教育は村の小学生に地域の自然を伝える「自然教室」を開催しています。調査研究はエゾシカの管理のため個体数調査を行い、捕獲個体分析、狩猟技術・文化調査を行っています。



自然教室の様子

ここが自慢

【エゾシカの命を大切に活用】

入猟事業に伴い人口1千人の村に年間延べ約500人が宿泊し、宿泊等による経済効果は年間約1,400万円になります。「私たちが獲り、私たちがなめし、私たちが創る」をコンセプトにこれまで廃棄処分していたシカ皮を活用した村内で完結する特産品の開発・製作に取り組んでいます。野生動物を「害獣」でなく地域の「自然資源」として活用するとともに、専門知識を持つ狩猟者を育成し野生動物管理の地域モデルの構築を進めています。



木製ドラムでシカ皮を洗浄する様子、なめした革を製品に加工

連絡先	
代表者名	： 中原 慎一さん / 設立：2004年 / 会員：33名
住所	： 西興部村字西興部485
電話番号	： 0158-87-2180 (事務局長：伊吾田 順平さん)
FAX	： 0158-87-2180
E-mail	： junp0913@gmail.com
URL	： https://www.vill.nishiokoppe.lg.jp/Villager/Ryook